UNIVERSITAS KOMPUTER INDONESIA
JURUSAN SASTRA JEPANG

Semester	**: V**
Bahan kuliah	**: Dokkai III**
Dosen	**: Dra. Renariah, M. Hum**
Pertemuan ke	**: 9**

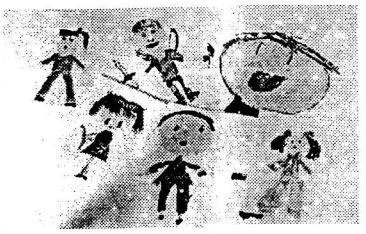
長文読解練習　１
「似顔絵」

■　ポイント

（１）　段落ごとに何について書いてあるかみる。
（２）　指示語、代名詞が何を指しているのかをみる。
（３）　それぞれの『違い』と『共通点』をみる。
　　（対比・逆接の接続詞）

■　本文新出語

名詞　：幼稚園　ひげ　特徴　似顔絵　タイプ　本人　バナナ　タイヤ
　　ハンバーガー　犯人　市民　情報　その辺［「ところ、点」の意味］
な形容詞　：正確
形容詞　：怪しい
名詞／動詞Ⅲ　：表現(する)　強調(する)　共通(する)　味付け(する)　活躍(する)
動詞　：生えるⅡ　くっつくⅠ　捕まえるⅡ
　　［基本動詞の用法］
　　・(絵を)かく　(～形を)する
副詞　：しっかり　実際(に)は　実際に
その他　：～倍　(彼)ら　(→ L.7 本文「これら」)



段落　指すⅠ　共通点

＜本文を読む前に＞

文章には5つの段落があります。それを確認してください。

＜練習A＞　本文を1回さっと読んで、次の作業をしてください。

（1）　それぞれの段落でどんな人が紹介されているか確認して、その名前を書いてください。

第1段落 _____

第2段落 _____

第3段落 _____

第4段落 _____

第5段落 _____

（2）　重要な文だと思うところをチェックしてください。

・その人がどんな人か簡単にまとめられている文。

・その人がほかの人とどのように違うか、同じかまとめられている文。

＜本文＞

幼稚園の子どもが自分のお父さんやお母さんの顔をかくとなかなかおもしろい絵ができます。お父さんのひげが口の中に生えていたり、お母さんの口が耳とくっついていたりします。もちろん、実際にはそんな顔ではないのですが、子どもから見ると、そう見えるのです。でも、特徴をしっかり表現しているという点ではすばらしいと言えます。

プロの似顔絵をかく人には2つのタイプがあります。1つのタイプはまるで写真のように正確に、本人とそっくりにかく人で、もう1つのタイプはその人の特徴を強調してかく人です。2つ目のタイプの人がかく似顔絵は鼻が普通の3倍もあったり、あごがまるでバナナのように長く曲がっていたり、耳が象のように大きかったりするのですが、それを見ると、「ああ、あの人だ」とすぐに分かります。そんな鼻やあごの形をし

さっと　作業（さぎょう）　重要（じゅうよう）(な)

た人おもはなこれのフ点付けバー実はプはすがこの人を民かしましていう確なそう情報の人どいのでするこ

た人なんて実際にはいないのに、それを見てだれの顔か分かるところがおもしろいです。幼稚園の子どもがかく絵はこのタイプと似ているのではないでしょうか。違いは、まずプロはかく技術が高いということです。これはどのタイプのプロにも共通していることです。次に、このタイプのプロの絵は子どものそれと違って、いろいろと「味付け」がされている点です。料理の味付けが人によっていろいろあるように、似顔絵の味付けもいろいろです。人によっては、顔がタイヤになったり、口がハンバーガーになったりします。

実は、似顔絵をかくプロにはもう1つのタイプがあります。このタイプはできるだけそっくりにかくという点では1つ目のタイプと似ていますが、実際に本人を見ながらかくのではなくて、聞きながらかく人です。このプロが活躍するのは、警察が逃げている犯人を捕まえる時です。犯人を見た人からその特徴を聞きながら似顔絵をかいて、それを使って市民から情報を集めます。

しかし、最近は何でもコンピューターを使って仕事をするようになりましたから、このタイプのプロの仕事が少なくなったのではないかと思っていました。ところが、警察の話によると、正確なら正確なほどいいということではないらしいのです。ある事件でコンピューターを使って正確な似顔絵をかいたのですが、市民からほとんど情報が集まらなかったそうです。正確ではっきりかかれすぎていたので、それと似ている人の情報が少なくなったということです。なんとなく怪しいと思っても、その人とは違うと考えてしまうようです。

どれくらい正確にかけばいいのか。どの程度特徴をはっきりかけばいいのか。その辺をよく考えてかくのが3つ目のタイプのプロの仕事なのです。それで、そのあとすぐに彼らがかいた似顔絵もいっしょに使われることになりました。